

◆ DDR 芸術家協会理事長

ヘルマン・ファルク氏

— DDRでの激変に際して、芸術家協会にはどのような変化がもたらされているのでしょうか。また、どんな点が簡単になり、どんな点が複雑になりましたか？
芸術家協会は有限会社になったとも聞いていますが？
…。

芸術家協会は以前から有限会社組織になっていて、二つの立場を持っていました。一つの有限会社であると同時に、文化省付属の組織でもありました。まあ、文化省の付属団体として扱われ、独立したものではありませんでした。

— 今度のDDRの変革のお陰で、芸術家の幹旋を独占して行うことが出来なくなりました。芸術家は自分でエージェントを選ばず権利を持ち、またアンサンブルも自分達でマネージメントをする権利を持っています。また、他にもいろいろとエージェントができています。

— 競争が激しくなったのですか？

中には有名なベルリン・シャウシュピールハウス、共和国宮殿、DEWAGという大手の広告代理店、ドイツ・レコード、そしてAWA（興行権保護協会）があります。その他に、我々は自分達の専属の広告代理店を設立しました。今後、我々は「DDR芸術家協会」ではなく、「ドイツ芸術家エージェント・ベルリン支部」になるでしょう。

やるべきことは十分すぎるくらいあります。日本とは特に良い関係にあります。この間また行ってきたのですが、一九九五年までにわたるアンサンブル派遣の契約を結んできました。DDRから日本に大規模なアンサンブルを送り込み、将来的にはチャーター機を利用して、帰りの便に日本のアンサンブルを乗せてきて、うちがドイツだけでなくヨーロッパ全土でコンサート等の手配を仕切りたい、と思っています。うちがやるのであれば、パートナーがたくさんいますから。日本との関係はこれから、間違いない益々良いものへと発展していくでしょう。今後の見通しは完璧です。すべて以前に比べると簡単になったのです。すべてをただちに決定することができるようになりましたし、もう官僚主義は存在しません。ただ問題なのは、あるプロジェクトに関してお金をだせるかどうか、またスポンサーは見付けられるかどうか、等です。我々はどう、誰かにお伺いを立てて許可を得る必要はないのです。

— ご承知の通り、我々が非常に有力なエージェントであることは変わりません。諸外国、特に日本とは強力なコンタクトがありますし、経験もあれば技術的な基礎もしっかりしています。ですから、我々は今後共この分野において一番強い業者であることは変わりないでしょう。

— 今何か特定の分野を専門にしていらっしゃるのですか？

いいえ、我々は今まで通り、軽音楽からコンサートのソリストに至るまで、広汎に取り扱っていきます。もちろん、DDRの芸術家のうち何人かは他のエージェントを選ぶでしょう。我々も仕事がたくさんあり、全部が全部幹旋できるわけではありませんから。

— 今、いくつぐらいのエージェントがあるかご存じですか？

基本的に、地方組織の改変と共に、地方協議会のコンサートやその他の公演を管理している部門が独立してエージェントになるでしょう。私企業は非常に少なく、また取り扱い範囲も非常に限られています。さて、我々自身、会社として拡大したのです。以前は二つの組織しかありませんでしたが、今は六つの組織があります。その

— 昨年末のある新聞とのインタビューで、DDRでの公演をするための条件は、ホテルの割引きも出来なくなったりで、多額の金銭が必要になり、厳しくなる、とおっしゃいましたね。

それは本当です。ですから、問題となるのは、いつもお金なのです、と申し上げたのです。ホテルの料金は上り、飛行機の運賃も高くなっています。どう見ても文化について良いこととは思えません。

— でもあなたは以前と変わらず文化交流を發展させていこうとしているのですか？

そうです。芸術家協会は主催者にもなるのです。次のプロジェクトとして、シドニーからミュージカルを招聘しますが、DDRでの公演日程は五十日間を予定しています。我々は今まで、仲介を行うだけで、いつも舞台裏にいました。我々の業績を評価してくれる人は誰もいなかったのです。これからは我々が正面に立ちます。今まで我々は、人気のある面白い芸術家を連れてきても、ほんの僅かの手数料を貰うだけでした。これから我々は堂々と主張し、公演の一部を自ら引き受けます。

— 今年、日本におけるハイライトは何でしょうか。

今年にはベルリン国立歌劇場が日本にいき、二ヶ月間全
国で公演します。この歌劇場はオペラはもちろん、バレ
エ団、ベルリン国立歌劇場管弦楽団と一緒です。それに
続いてトーマス教会少年合唱団とドレスデン室内管弦楽
団が公演します。我々は毎年大体五団体ほどを日本に派
遣し、また日本から三々四々の楽団を迎えています。問
題はもちろん、これにかかる費用をどうやってまかなう
かです。私は国が文化に対する資金的援助を単純に削っ
てしまうことがないとは思っていますが、少しでも誇り
を持っている国であれば、文化に関して補助を削ってし
まうようなことはないと思いますし、新しいDDRの政
府もそうでなければいいと願っています。例えば、シャ
ウシュピール・ハウスであっても、全てを自前でまかな
うことは無理でしょうし、また、国立歌劇場の公演の場
合も例外ではありません。ですから、これからは楽団が
採算をとって行くためにはあらゆる手段を講じる必要が
あります。入場料を大幅に引き上げても問題の解決には
難しいかも知れません。文化は、お金のかかるものです。

(九〇年四月十六日)

— シュミット教授、まずは学長ご就任おめでとうござ
います。これから色々とお忙しくなるでしょうが、
それとは別に、学長に選ばれたということは人々の
信頼の証であり、非常に名誉あることだと思われ
ますが、

ええ、率直に申し上げて、芸術の分野の研究所で女性
として初めての、しかもDDRで初めての秘密選挙で選
ばれた学長に就任できたことを大変誇りに思っています。
学生が予備選挙を行った時に、ダンス音楽科の学生まで
含めた全員が一致して私が選んでくれたのです。ダンス
音楽関係の人は私が彼等のために尽力するかどうか余
り信用していませんでした。でも、音楽大学は音楽的表
現に関するものでしたらすべて扱っているわけですから、
こうした疑惑は本当はまったく意味のないことなのです。
芸術協議会内部では圧倒的多数で私が選ばれたのです。
賛成二十五票、反対二票、棄権一票で、まったく信じら
れないような結果です。大きな課題が課せられたわけで
す。立候補したときに、向こう一年間は長期にわたる海
外での公演は取り止める、という条件を出しました。二
三週間ここを空けることを避けるためです。何かと問
題が起きやすいでしょうし、長期的に計画を立てなけれ
ばなりませんから。その後は一九九一年の四月に海外公
演を行うことになっているのですが、真っ先に日本に行

❖ ベルリン ハンス・アイスラー
音楽大学学長
アンネローゼ・シュミット教授



きます。でも、東ドイツや西ドイツ、オーストリア、ス
カンジナビアの国々など、飛行機でさっさと行けるところ
の公演は続けていきたいと考えています。

— そんなにたくさん義務がおありだと、うらやましい
どころではないですね。

ええまあ、でも、とっても恐ろしいような気持ちなの
です。私自身、体験したことのないような恐ろしい気持
ち：お分かりになりますか？私が信用され、それによって
起こってくる様々な関係……。とにかく私は、ここに関係
する皆様のご希望で、私に寄せられているものについて
はお応えしていこうと思っています。二つのベルリンが
一つになり、恐らくは首都になることでしょう。そうし
た意味で、今私達はちょっと困った状況にあります。芸
術的な教育機関の数を減らそう、という計画があるので
す。私にはまったく理解できないことなのですが、ベル
リンが首都になれば、人口は四五〇万人にのぼるといわ
れていますし、それぐらいの規模の都市には普通、二―三
ないしは四つぐらいの音楽教育機関があります。例えば
ミュンヘンには音楽学校が二つありますし、西ベルリン
には二つありました。国際的に有名なシュテルンシエ・
コンゼルバトワールがなくなってしまうのは非常に残
念ですが。その他東京、ロンドン、ニューヨークにも音